

ふたば

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌 [RIKKA]

2018.AUTUMN



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

No. 26

授業紹介 - 教育の現場 -

学生の課外活動&サークル紹介 Enjoy! 学生ライフ

注目される研究報告

シリーズ 恩師と語らう

活躍する卒業生紹介 “学びの先”

OBOG・教員によるコラム

基金関係のお知らせ

Campus Information

特集
その真価
研究力を支えるURA、

真の強さを学ぶ。



新潟大学



Cover Photo

西門を入るとすぐに目に飛び込んでくる総合研究棟の建物。物質・生産系、環境・エネルギー系、生命・環境系、情報理工系と5つの棟で構成され、主に自然科学系の研究が行われる。

2018.AUTUMN vol.26

CONTENTS

- 03 特集
研究力を支えるURA、その真価
- 08 授業紹介 -教育の現場-
- 09 Enjoy! **学生ライフ**
- 10 注目される**研究報告**
- 12 シリーズ **恩師と語らう**
- 13 活躍する卒業生紹介 **“学びの先”**
- 14 **OBOG・教員によるコラム**
- 15 **基金関係のお知らせ**
- 16 **Campus Information**

『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。



題字
野中浩俊(のなか ひろし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウントが更に充実!

従来のfacebookに加えTwitterとInstagramも公式アカウントがスタート。更に本学の取り組みや普段の様子、フォトジェニックな風景などをお楽しみいただけます。



特集

研究力を支えるURA、その真価



大学の研究者・教員と共に研究の活性化・高度化を支える包括的な支援活動を行う人材として、近年注目が集まるURA(リサーチ・アドミニストレーター)。全国にURAは800名以上いると言われており、大学全体の研究推進の一翼を担い、研究のための外部資金獲得とそのための仕組みづくり、研究力の分析、研究環境の整備に取り組むなど、大学に欠かせない人材となっている。新潟大学の研究力を支える彼らの真価に迫る。

新潟大学 研究企画室URA 設置の経緯と特徴

新潟大学は、平成24年に文部科学省の「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業で15大学のひとつに採択され、新たにURA組織を整備した。大学の財政状況が厳しい中、彼らに期待される最も大きな役割は、外部資金獲得に向けた研究者の支援だ。

「大学執行部と部局が連携して外部資金の獲得に向けて動く姿勢は、以前からあったと思います。URAはその動きを活発にし、大

学として特徴ある分野を戦略的に強化することを目的に設置されました」とURAメンバーの長谷川 知子さんが語る。
また、同メンバーの久間 木寧子さんは、研究者が研究以外の業務に忙殺され、肝心の研究に使う時間が少なくなっている現状を指摘する。

「日本の研究者は研究以外にも、教育、大学運営や社会貢献への役割を果たすことが求められており、研究時間の確保が難しい状況です。研究時間を確保し、研究活動を効果的・効率的に進めていくためには研究支援体制を整える必要があります。この研究支援体制の取り組みについては、海外ではすでに100年以上の歴史があります。URAは、外部研究費獲得に向けて情報提供や申請書作成支援などの研究支援活動を行うと共に、研究者と事務と協働しながら研究活動活性化のための体制を整える役割も担っていると考えています」

新潟大学URAは配置当初、大学を代表する研究として選定された「超域研究プロジェクト」を対象に活動を開始した。トップ研究者の外部資金申請にかかわることで、研究内容を理解する



URA member

[専任7名]
2018年
10月現在

国際連携

飯島 想

- ・生物的環境浄化に関する研究で博士号取得
- ・JICA専門家としてベトナム駐在等

国際連携

阿部 貴子

- ・神経成長円錐の研究で博士号取得
- ・8年間の米国留学、工学部での研究等

企業連携

シニア 進藤 典男

- ・ソニーで技術戦略立案等に従事後早期退職
- ・2010年技術経営修士(MOT)

研究支援

松鷹 宏

- ・CNTを用いた生体分子計測の研究で修士号取得
- ・理研ベンチャー企業で材料開発に従事

研究推進

長谷川 佐知子

- ・住友商事で10年間化学品貿易業務に従事
- ・英国留学、新大での産官学連携等を経てURAIに

研究IR

平井 克之

- ・植物ウイルスの発病機構で博士号取得
- ・日本郵便(株)総合職として、人事やコンプライアンス等の企画部門に従事

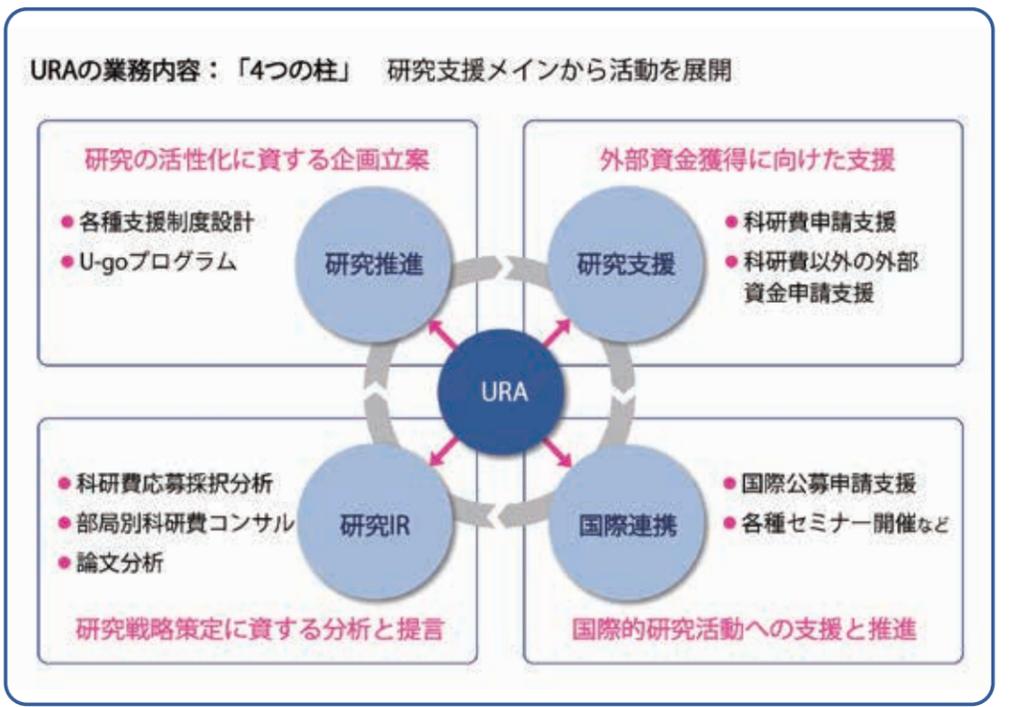
研究IR

久間木 寧子

- ・微生物の酵素研究で博士号取得
- ・NITEでのポストドクを経て本職へ

力をつけ、申請のスキルを間近で学んできた。その後、体制の充実化と並行して支援対象を全学に拡大し、整備開始から6年目の現在は、研究支援メインから3つの要素が加わり、「4つの柱」を軸とした活動へと展開している。

新潟大学には現在7名の専任URAが在籍。各人が担当ジャンルを持ちつつ、横断的にチームを組んで業務に対応している。彼らはどういった力を持つ集団なのか？「社会的経験に基づく広い視野を持つ人材が必要とされている」と



外部資金の獲得に向けた研究支援

先述のとおり、新潟大学URAIの業務は大きく分けて4つの柱で構成されている。最も大きなウエイトを占めるのが「研究支援」。外部資金獲得に向けた研究者のサポートだ。情報収集のチーム作り、申請書作成、学内外調整など、研究者を包括的に支援する。「外部資金は科学研究費助成事業(科研費)と呼ばれているものから先端的な研究に向けた競争的資金など様々なものがあります。それらの獲得のために、私たちは先生方に情報を提供したり申請書の作成を支援しています。外部資金を獲得する上で、研究者が専門的な内容で押すだけでは、

「新潟大学URAIはチームとしてプロジェクトに取り組みのも特徴です。複数の人間の意見を取り入れ、戦わせることにより、申請内容がよりよいものになっていくということ非常に実感しています」(長谷川久間木)

「新潟大学URAIはチームとしてプロジェクトに取り組みのも特徴です。複数の人間の意見を取り入れ、戦わせることにより、申請内容がよりよいものになっていくということ非常に実感しています」(長谷川久間木)

審査委員にその研究の良さが伝わりづらくなってしまう。また、先生方は分野のプロフェッショナルゆえ、ご自分の研究をある二方向から限定して見てしまいがちです。それに対し私たちは、研究内容としては同じことでも、その説明を少し一般的な事柄から始める、異なる視点からのアプローチを加えるといった提案をよく行います。

研究の目的や背景を審査員にわかりやすく伝え、必要性や重要性を際立たせるためのサポートを行うのです。審査員は分野の専門家ではなく、分野外の有識者が集まっている場合もあるので、それに対応した配慮が必要です」(長谷川久間木)

研究に対する一定の知見を持つ、対象を客観的に見る必要がある。彼らの意見は非常に重要な

URA利用者の声

大学院医歯学総合研究科(医学部) **日比野 浩 教授**

**研究者が気付かない分野外の人
理解が難しい点を指摘してくれる**

私はURAによる継続的な支援を受け、日本医療研究開発機構の平成27年度革新的先端研究開発支援事業(AMED-CREST)「メカノバイロジ-機構の解明による革新的医療機器及び医療技術の創出」の研究開発代表者として採択されました。

実際に研究している自分たちでは、どこが分野外の人にとって分かりづらいのかが分かりません。審査では、分野外も含めて審査員に専門的な部分を十分に分かってもらうのがポイントなので、URAがその点を指摘してくれるのはとても役立ちます。どんな申請でも冒頭の概要や目的の部分が重要だということも彼らから学んだことです。申請書本体でも、図や文字の強調を効果的に活用し、それらを追っていただくだけで一般の人でも研究の全体像が分かるように工夫しています。

ひとつの成果を次の研究費につなげ、さらに発展させて行く—URAには、ぜひその点でサポートをお願いしたいです。また、いろいろな分野に関わっているので、研究者が思いもつかないような研究アイデアも出てくるのではないのでしょうか。研究プロジェクトの企画段階から携わることで、新潟大学URAの色を出して行ってほしいです。

**研究の活性化に
資する企画立案による
研究推進**

と云える。さらに、審査員の専門分野を調べ、分析するなど、審査の周辺情報も収集している。新潟大学URAI支援による大型外部資金獲得の実績として、平成25年度から29年度では直接経費約24億円、間接経費約4億円の獲得が挙げられる。

二つ目は「研究推進」。大きな外部資金獲得のためには学内の研究を活性化させることが不可欠だ。そのために必要な各種支援制度を企画し実行する役割もURAIが担当する。彼らが企画した「U-go(ユゴ)プログラム」は総合大学としての強みを生かし、分野横断の連携を進めるプロジェクト。異分野連携・融合研究を支援し、幅広い研究分野を活性化させている。最大100万円の研究費を助成する「U-goグラン

URAが支援し採択された大型外部資金 [2018年10月現在]

H25年度	文部科学省「大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業」 文部科学賞「革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM)」
H26年度	文部科学省「大学の世界展開力強化事業(ロシア)」 内閣府「戦略的イノベーション創出プログラム(SIP)」
H27年度	AMED「感染症研究国際展開戦略プログラム(J-GRID)」 AMED「革新的先端研究開発支援事業(AMED-CREST)」 文部科学省「大学の世界展開力強化事業(トルコ)」 文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生事業(COC+)」
H28年度	農林水産省「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」 文部科学省「大学の世界展開力強化事業(ASEAN地域)」 農林水産省「農林水産政策科学研究委託事業」 AMED 革新的先端研究開発支援事業(PRIME)
H29年度	文部科学省「頭脳循環を加速する戦略的国際研究ネットワーク推進プログラム」 農林水産省「戦略的国際共同研究推進委託事業のうち国際共同研究パイロット事業」
H30年度	文部科学省「先端研究基盤共用促進事業(新たな共用システム導入支援プログラム)」 AMED「医療分野研究成果展開事業(先端計測分析技術・機器開発プログラム)」

URA利用者の声

自然科学系(工学部) 兎玉竜也 教授

海外の省庁へ申請する申請書作成や
学内手続きのサポートに感謝

私は太陽エネルギーの大量貯蔵・輸送を可能にする次世代ソーラー水素エネルギーシステムについて研究しています。これは、世界の日射量の多いサンベルト地域において太陽の動きに伴って移動する多数の鏡を配置し、太陽光を効率よく集めて、1,400℃の高温の熱エネルギーに変え、それを用いて水を熱分解することにより低コストで水素を製造するものです。

私が受けたURAのサポートは多岐に渡りますが、最も助かったのは、オーストラリアとの共同研究においてNEDO、豪州再生可能エネルギー庁 (ARENA)、環境省等への研究プロジェクト申請書の作成補助です。また、採択後の契約書や学内協力体制の構築への協力、海外の研究機関との研究協定、共同研究の締結への協力(学内調整、契約書の修正・確認等)など、URAの存在なしには時間的にも作業的にもスムーズに進まなかったと思います。

URAは私たち研究者の可能性を大きく広げる能力があります。今後はさらに、科研費を含む省庁への研究プロジェクト申請への協力、採択された後の事務手続きの補助、研究プロジェクトチームの構築、当方の研究トピックスにあった省庁関係のプロジェクト募集の情報提供などに期待しています。



また、国際共同研究契約、外国人研究者の科研費申請なども支援している。来年度に向けてさらに活動が充実する予定だ。

**URAから見る
新潟大学の研究力**

特定の領域や部局に制限されず、学内全体の研究状況を俯瞰し情報を集約するURA。彼らは総合大学としての新潟大学の研

究力にどのような可能性を感じているのか？

「基礎的な研究に取り組みれている先生が多いと感じます。最近では日本酒学やビッグデータアタテイション研究センターなど、新たな異分野連携の研究チームが立ち上がりましたが、先生方が取り組まれてきた、しっかりとした基礎研究という基盤があるからこそ、と思っています」(久間木)

「やはり日本の脳研究のバイオニ



アである脳研究所と災害・復興科学研究所に期待しています。海外と比較しても特徴的な研究を進めていて、さらに他分野の先生方と連携して取り組んでいる点に大きな可能性を感じています。

また、第5期科学技術基本計画においては、自然と共生する世界の実現が重要なテーマと示されており、その観点からも、平成31年4月に設置される佐渡自然共生科学センターが本学の特色として発展していくよう支援していきたいと思っています」(長谷川)

また、今年度から「RETOP」という研究支援トータルパッケージを展開している。これは新潟大学URAが行っている様々な研究支援や分析、研究資金情報の収集の取り組みを主に県内の私立大学に有償で開放・提供するサービスだ。利用大学は研究支援のノウハウや人材不足を補完し、業務の負担軽減・効率化ができる。また、

新潟大学URAに期待する今後の展望

URAは大学の将来像を描く上で大きな力になる



高橋 均 理事
(研究担当)

大学の根幹を支える研究力は非常に重要で、そのために必要な科学研究費などの外部資金獲得は今後も新潟大学にとって大きなテーマです。URAはそれを支える知識集団。現在は研究支援員としての性格をかなり強く持っていて、大学執行部としても、研究を活発にするためにふさわしい組織や制度を考える仕事を任せています。異分野連携や融合研究を支援し研究分野を活性化させようという「U-goプログラム」は、どのようにして外部資金や研究費を増やしていくかという使命に対する彼らの成果です。学部内で閉じない研究推進や、人材育成・発掘に大きく貢献していると思います。また、産官学コーディネーターとは常に表裏一体で連携を図っていく必要もあります。新潟大学の強みや優れた研究者を発掘することで、新たな研究のスタートアップポイントから関わってみたいと思います。

私が将来的にURAに期待するのは、大学全体の運営や経営に資するような役割を担ってもらうことです。知識集団としてのURAは、大学の将来像を描く上で、大きな力になるはずだと考えています。そのため、今の段階から各理事と直接コンタクトをとり自由に提案できる関係を構築しています。

新潟大学には研究シーズを収集し、新たな共同研究や質の高いプロジェクトに繋げる可能性が高まるというメリットがある。現在、3大学と契約を結んでおり、来年度については契約する大学も増える見込みだ。

新潟大学URAが大学全体の研究状況を把握することで、総合大

学としての強みが見えてくる。学内の研究情報が蓄積され、外部資金獲得のノウハウが集約されていくのもURAの存在意義。将来的には大学全体の政策に関わる指針がURAから発信されるという可能性も大きい。彼らの力は今後、新潟大学が進む未来において大きな推進力になることが期待される。

ト」半期に一度の研究者交流会「U-goサロン」ウェブ上で研究者が交流できる「U-goウェブ」に加え、分野を超えたマッチング支援など、新たな学問領域の創出・外部資金獲得へ向けた企画・運営を行っている。

「U-goサロンには毎回100名ほどの参加があり、ここで出会った先生方が実際にコラボ研究を進められています。私たちは研究推進のためのグラントも立ち上げました。先生方がこの研究費で新

U-go(ユーゴー)プログラムの企画・運営 (H28年度~)

異分野連携・融合研究を支援し幅広い研究分野を活性化 → 新たな学問領域の創出・外部資金獲得へ

3つの取組み+α	U-go Grant 最大100万円の研究助成	H28年度(応募30件) H29年度(応募26件) H30年度(応募30件)	10課題採択 20課題採択 14課題採択	マッチング支援 コラボ分野 お相手探し これまでに 53名を支援
	U-go Salon 半期に一度の研究者大交流会	第1回(2016年12月) 第2回(2017年6月) 第3回(2017年12月) 第4回(2018年6月)	各回約100名参加	
	U-go Web ウェブ上のU-goサロン	サロンでのポスターなどこれまで	研究情報106件掲載	



な研究の芽を育て将来的に大きな外部資金を獲得するというストーリーを期待しており、実際にそれを実現した先生もいらっしゃいます。U-goサロン以前にも、学内の有志による異分野交流会がありました。また、研究者自身の「もつ」と他の分野の研究を知りたいという要望もあり、それらの良い流れの中で、U-goプログラムをスタートすることができたと考えています」(長谷川)

研究戦略策定に資する分析と提言をする研究IR

三つ目は「研究IR」。科研費応募採択分析、部局別科研費コンサル、論文分析を行う。科研費獲得には分野の特性や部局の事情をふまえた対策が必須。URAが中心となり分析と提言をする。「二例としては「新潟大学にお



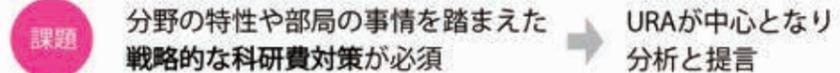
ける科研費獲得の総合行動計画」の提言に携わりました。目標値の達成状況の分析結果報告を一つの契機として、個々の先生方の科研費に対する活動状況、大学・分野別の状況をデータ化・分析した資料を作成し、部長長訪問を行い、各部署の現状・課題、分野特性ごとの研究推進方策等について意見交換を行っています。その内容については、研究担当理事をはじめとする大学執行部に報告し、次の研究推進に向けた活動を検討しています。科研費については、部局分析として役立つ情報と、個々の研究者も活用できる柔軟性の高い分析ツールもURAが独自開発しました。今後は、新潟大学の強み抽出に役立てたいと思っています。他大学URAとも情報共有を積極的に行っており、新潟大学の研究力向上に役立てています」(久間木)

国際的研究活動を支援、推進する国際連携

四つ目は「国際連携」。国際共同研究の活性化を目指し、海外

ファンディングプログラムのセミナーを開催している。「先生方が海外のグラントに応募する際に支援したり、今年度は欧州連合が推進する「Horizon 2020」という研究助成の仕組みについてセミナーを開催しました」(長谷川)

科研費への対応



①新潟大学における**科研費獲得の総合行動計画** (H29.3.10大学研究委員会決定)

URAが部局別目標値6項目を設定	申請率	採択率	新規	基盤B以上の課題割合	新規
	新規+継続	課題保有率	新規+継続	新規+継続	新規+継続

②柔軟性の高い分析ツールを独自開発 (右図)

1. データ分析の生産性向上
2. 戦略提言の品質を高める

③部局長との個別打合せ (コンサルティング)

1. 所属研究者個人別の状況
2. 研究分野別のベンチマーク分析

訪問した部局数 **13部局**



Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学のみならずサークル活動を始め様々な課外活動で活躍しています。このコーナーでは、そんな青春の1ページをお届けします!

CAMPUS TOPICS

「キャンパスからの提言フォーラム」で法学部の学生グループが奨励賞を受賞しました

大学生による地元新潟市への愛着と関心を高め、地域社会のさらなる発展に寄与する人材の育成につなげることを目的として8月26日(日)に開催された「第5回キャンパスからの提言フォーラム」に、本学から3つの学生グループが参加しました。同事業は、新潟市近郊の大学で組織する大学連携新潟協議会と新潟市による連携事業として毎年行っているもので、今年で5回目となります。今年度は「理想の生活をおくることのできる『新潟』とは」をテーマとして、各大学の学生で構成される総勢8グループの学生が、新潟市職員をはじめとした関係者との3回に及ぶミーティングを経て、発表に挑みました。各グループとも学生らしいアイデアを盛り込んだ発表を行う接戦の中、本学法学部の学生グループが奨励賞を受賞し、日頃の研鑽の成果を発揮しました。



学生団体 CANsが学生団体総選挙で部門グランプリを受賞しました



子ども達に挑戦する機会を創り“できた!”という経験から自己肯定感などを醸成することを目的に活動している学生団体CANsが、7月7日(土)にベルサール新宿セントラルパークにて開催された「学生団体総選挙」の「キャリア・教育・医療」部門でグランプリに輝きました。学生団体総選挙は、全国で活動を行う学生団体や学生組織が集まる学生の祭典であり、8部門のグランプリ団体が一般観戦者600人と協賛企業様全員の前で決勝プレゼンを行い、「想い」「取組内容」「今後のビジョン」という観点で日本一の学生団体を決めるというものです。CANsのプレゼンでは「自分のやりたいことを見つけ、それに挑戦する、またはそのための努力ができる子どもたちを増やす!」と熱く語られました。「プレゼンで感動し、泣いてしまった。君たちを本当に応援したくなった」といった声を頂き、自分達の活動への「共感」を大きな原動力に今後も活動を続けていきたい」と感想を寄せてくれました。

CIRCLE PICK UP!

自転車競技部

部員一丸となり 朝練中心に実直に競技と向き合う

近年、一般道でも本格的な車体や出で立ちで颯爽と風を切る光景を良く目にするようになったロードバイク。自転車競技部は部員12名。週5日朝練を中心に年に15回に及ぶ大会に向けて汗を流す。「一般公道を走るロードレースは、20kmから最長で180kmもの距離を走破します。体力の使い方が肝ですね。かたやトラックレースではスケートでも注目されたパシュートなど複数の種目があり、ペダルの踏み方はもちろん団体種目ではギリギリの距離に近づくので信頼関係も重要です。信頼関係が重要なだけに普段からお互い意見を言い合える雰囲気が出ています。順位ももちろんですがそれぞれが自己ベストの記録をだせるよう日々練習に打ち込んでいます。朝練が中心なので飲み会も数えるほどしかありません(笑)。全員でゴール目指して走る練習が多く集団から遅れることができないので、ここの精神的な精神力が培われますね!」

限界まで自分を追い込んだあとの達成感が自転車競技の魅力



部長 濱田 幸祐さん (工学部3年)



↑公道を駆け抜けるロードレース

←トラックレースの団体競技ではチームワークが勝負の鍵



柳沼宏寿 教授

Hirotohi Yaqinuma



Profile

博士(教育学)。専門は美術教育、教科教育学、人間形成研究。

図画工作

小学生とのワークショップを交えながら造形教育の実践的指導力を身に付ける

教育学部小学校教員養成課程の「図画工作」は、小学生に充実した造形活動を体験させる図画工作の授業を構築し、実践する力を身に付けるといった目的を持った授業だ。担当の柳沼宏寿教授は、「絵を描いたりモノを造る図画工作というのは、子どもにとっての自己表現だと思うんです」と語る。さらに、「その自己表現が認められる／認められないというのは、子どもにとつて自分の肯定／否定にも繋がります。そういう意味では、その子が描いた絵は自己表現を認めてあげることが、人間性を認めてあげることになり、子どもの人間形成において重要な役割を担うと私は感じていま

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

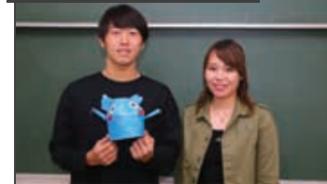
授業紹介

—教育の現場—

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

vol.25・教育学部

STUDENTS VOICE



左:大井 岳さん (教育学部 学校教員養成課程2年)
右:川又美咲さん (教育学部 学校教員養成課程3年)

「授業を体験したことがある友人から、「小学校へ行ったら子どもたちとモノを作ったりするので、実践的で楽しい」と聞いていました。その時間が今から楽しみです(川又)」「他の授業でも柳沼先生に教わっていますが、先生は子どもとの関わりをとても大事にされています。僕もこの授業で小学生との絆を体験したいと思います(大井)

す。その点を学生に伝えたいと考えています」
そのための具体的手段として、柳沼教授は、実際に学生と小学校で2時間のワークショップを行う出前授業を授業に盛り込む。すでに10年続けているこのワークショップは、小学校の体育館で、空気をいれると大きく膨らむバルーンを子どもと作って遊ぶというもの。取材

時は、学生が4班に分かれ、それぞれがクマやクジラなどバルーンの形状と構想を練っていた。自分たちのアイデアを具現化する模型を作る姿には、苦勞する中にも笑顔があふれていた。モノ作りの楽しさと難しさを体感している姿が印象的だった。
「授業で事前に7割くらい作り、残りの3割を小学生と一緒に作ります。それに風を入れるとフワッと大きく膨らむ—その瞬間、子どもたちは興奮して大喜び! 体育館を走り回ったり、バルーンの中に入ったりして、みんな笑顔。あの瞬間を学生に体験させたいんです。子どもと一緒に夢を追いかけることができるのが図画工作の醍醐味ですから」
想像や発想を形にして、子どもと共に未来に進む。そんな図画工作の本質を実践的に学ぶ授業である。



ITをもっと身近に、
もっと快適に。

株式会社 NS・コンピュータサービス
〒940-0045 新潟県長岡市金房3丁目3番2号 [TEL] 0258-37-1320 [URL] http://nscs.jp
OB・OG 多数活躍! インターンシップ受付中! [MAIL] saiyou@nscs.jp



人文社会科学系(創生学部)
佐藤 靖 教授



| Profile | 博士(科学社会学・科学技術史)。第2次世界大戦後～現在までの国家(特に米国連邦政府)と科学技術の関係を研究。

研究
課題

システム、リスク、イノベーションの概念を軸に 現代の科学技術を歴史的に分析

異なるアプローチの研究を組み合わせ より総合的な現代科学技術史像を示す



米国連邦政府は、時代の環境変化に応じて科学技術の方向性に影響を与えてきた。東西冷戦下では軍産複合体の形成を支え、原子力・宇宙・コンピュータ分野で巨大化・複雑化するシステムを創り出した。だがその後、デタントや冷戦終結を経てグローバル化が進展してくると、国際水平分業化やデュアルユース化(軍民両用化)を推進し柔軟なネットワーク型の科学技術への移行を促進する。

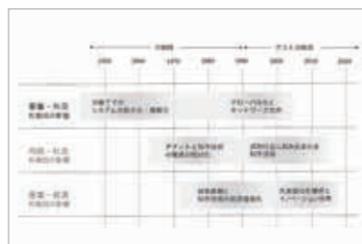
「科学技術には様々なリスクも伴いますが、1960年代末以降、原子力発電所や化学物質などのリスクに社会的関心が集まると米国連邦政府は定量的なリスク評価

の手法の導入を進めます。しかし1990年代以降、科学技術が社会により深く組み込まれるようになると市民や利害関係者との議論をも重視したリスク対応になっていきます。経済的な観点からは、1970年代後半以降の米国で、産業競争力の強化が重要な政治的課題になったときや、2000年代後半以降の多極化の時代には、連邦政府のイノベーション重視の姿勢が強くなり科学技術のもつ経済的ポテンシャルの具現化を目指すようになります」

このような現代科学技術に関する歴史研究は、これまで軍事・政治史、科学技術社会論(STS)、経営史の大きく3つの異なる学問的アプローチからなされてきた。佐藤靖教授は、こうした異なるアプローチからの研究成果を組み合わせることで、より統合的な現代科学技術史像を示すことができると研究を進めている。

2010年代に入ってから、人工知能(AI)やゲノム編集技術・合成生物学など人間や社会のあり方を揺るがしかねない科学技術が広く普及し、これからの高度科学技術社会の行方がいったいどうなるのか、関心をもつ人が増えている。

「確かに最近、科学技術の進化のスピードは以前にも増して速くなっているようにも感じますが、その性格や方向性を冷静に見定めるためには歴史的なアプローチが重要です。なぜなら、現在の科学技術は長年にわたる各国の政府や企業などからの資金投入により築かれ、その影響下で形成されてきたものだからです。特に第2次世界大戦後の科学技術史を考えると、米国連邦政府が果たしてきた役割は大きいものがあります」



↑第2次世界大戦後の科学技術の展開における6つの大きな流れとその時代背景



↑現在の科学技術の全体的傾向とその経済社会的背景



↑2018年8月に開催された国際科学技術社会論学会の会場(シドニー国際会議場)にて



↑近年研究した内容をまとめ発刊した書籍

自然科学系(工学部)
ビッグデータアクトベーション研究センター(コア・ステーション)
山崎達也 教授



| Profile | 博士(工学)。専門は情報通信・ネットワーク工学。

研究
課題

ビッグデータを用いた 能動的深層学習の融合研究

ビッグデータやオープンデータを利用・分析 社会に貢献する融合研究を目指す

仮想空間と現実空間を高度に融合させ、イノベーションによって新たな社会を生み出そうという政府提唱の指針「ソサエティー 5.0」。この近未来に訪れる新時代に向け、山崎達也教授はビッグデータやオープンデータを利用・分析。社会に役立つ融合研究を目指す。

「ロボット技術や ICT(情報通信技術)を活用して超省力・高品質生産を実現するスマート農業の実現に向けて取り組んでいます。具体的には、生育中のレクチュエの果実を守る袋内環境の“見える化”を目指しています。袋内に小形センサを入れ、温湿度の継続センシングを行い、湿度が及ぼす果実の汚損についての

データを取っています」
計測は果実を守る二重パラフィン紙製の袋を対象に3年間実施。幅広の袋は袋内空間が広がることで湿度が下がり、表面に厚手の紙を使った袋は空気の入りが起きにくく湿度が高い結果になった。これらのデータを利用すれば、より効率的な生産が可能になることが期待される。ICTが農業に応用できる一例だ。

また、自治体のオープンデータを用いた分析にも取り組む。新潟県の交通死亡事故に関して、各種オープンデータを元に事故発生地点の特徴抽出と傾向分析を行っている。

これらの取り組みをさらに発展させることが期待されるのが、山崎教授がセンター長を務めるビッグデータアクトベーション研究センターの存在だ。現在、学内の34名の研究者が在籍。新潟大学に点在する実世界センシング技術、ビッグデータ分析、深層学習に代表される人工知能等の情報通信技術を基盤とし、医学、工学、農学、理学などの各研究分野に蓄積されている大規模データから新たな知識を創発することを目的にしている。

「人工知能を使ったデータ分析を発展させれば、医療の現場では診断が正確になり、工場では製品の質が上がる。様々な場面で生活の質の向上に貢献するような研究を新潟大学から発信できればと考えています」



↑小形センサを用いたレクチュエの袋内環境の「見える化」



↑ビッグデータアクトベーション研究センターでは、分野横断的に研究者を結集し、従来の枠を超えた知識や価値の創出を目指す



↑現実世界の行動をCGの世界で表現する試み。関節の動きをデータ化し、バスケットボールのシュートモーションをするとスクリーン内でボールが投げられる

注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介!

企業の技術向上を目指す産学官交流ネットワーク 新潟大学産学連携協力会

新潟大学地域創生推進機構と産業界等が密接に連携し、産業の活性化、高度化、地域社会の発展を目的に技術の向上及び地域連携を図ります。



詳細をお知りになりたい方、加入ご希望の方は、ホームページをご覧ください。新潟大学産学連携協力会 <http://www.irep.niigata-u.ac.jp/kyouryokukai/>

お問い合わせ先 新潟大学産学連携協力会(新潟大学地域創生推進機構内) TEL 025-262-7553 FAX 025-262-7577 Email unico@ccr.niigata-u.ac.jp

新潟大学附属図書館

学術書・専門書多数。地域に開かれた明るく開放的な図書館です。
卒業生・一般の皆様もお気軽にご利用ください!

貸出用の図書館利用カード作成できます

- 貸出期間 2週間
- 貸出冊数 新潟大学カード会員：図書10冊
卒業生：図書5冊
一般の方*：図書5冊 *新潟県内在住18歳以上の方が対象

開館時間：平日 8:00～22:00
土・日・祝日 10:00～22:00
※学生休業期間については開館時間を短縮します。
※本学の定期試験期間中は、閲覧席利用をお断りすることがあります。
休館日：年末年始等

開館スケジュールや利用方法は
附属図書館ホームページをご覧ください。

新潟大学 附属図書館

お問い合わせ先 新潟大学中央図書館 情報サービス係 TEL 025-262-6221 / FAX 025-264-2218 ホームページ <http://www.lib.niigata-u.ac.jp/>



東京・六本木に本社を構えるテレビ東京を拠点に活躍



10年担当を続ける競馬中継では新潟競馬場にもしばしば



プライベートでは趣味の釣りが良い息抜き



株式会社テレビ東京
編成局 アナウンス部
増田和也さん
Profile.
1982年、群馬県前橋市生まれ。2004年3月理学部自然環境科学科卒業。同年株式会社テレビ東京入社。スポーツの実況、バラエティ番組などを担当。

活躍する卒業生紹介
“学びの先”
新潟大学で「真の強さ」を学び、
社会に羽ばたいた10万人を超える卒業生。
社会で活躍する卒業生をご紹介します。

会話を通して人や場の価値を伝える

活動ではテニスサークルに所属。飲食店でのアルバイト経験も大切な思い出。「おいしいお米とお酒、真面目で優しい人柄、冬の寒さと鉛色の空——新潟ではたくさんのことを学びました。海が近く大好きな釣りにも没頭できました。キャンパスライフ

「謙虚さと自分をしっかりと持ち
立ち位置を見失わない」

学生の就職先として今も昔も人気が高いが難関のひとつでもあるアナウンサー職。それも首都圏のキー局となればひとしおである。現在本学を卒業し、テレビ東京でアナウンサーとして活躍するのは増田和也さん。出身学部は理学部。印象に残っている講義は佐渡でのフィールドワーク。2週間の滞在で、さまざまな生物を採集し、ひたすらスケッチを繰り返したという。課外

毎週夜行バスで都内のアナウンススクールに通いました。地道な努力と縁がありテレビ東京に入社。最初の担当は競馬中継だった。「入社するまで競馬の知識がほとんどありませんでした。そんな自分が実況を任せられるなどとは思ってもいませんでした。プロとしてみなさんに有益で正確な情報をお伝えしたい一心で乗り切った記憶があります。それ

Information

テレビ東京WEBサイト
http://www.tv-tokyo.co.jp/
■ウイニング競馬
毎週土曜15:00~16:00
(BSテレ東毎週土曜14:30~16:00)
■TVチャンピオン 極〜KIWAMI〜
毎週土曜10:30-11:00
(BSテレ東毎週日曜21:00~21:54)

が今の礎になっています」
外からは華やかに見えるアナウンサーの仕事。その魅力とやりがいはいはんとどこにあるのか？
「出会いがすべて。さまざまなジャンルの方やトップランナーの方の話が聞けるのは本当に恵まれていると思います。もちろん初対面でお会いする方の魅力を引き出す難しさはあります。心がけているのは控えめな姿勢。自分の立ち位置を見失ったり勘違いをしないように、常に謙虚さと自分をしっかりと持たなければと意識しています。近い将来の目標は東京オリンピックの実況をすること。自分自身に過度な存在感はありません。会話を通して相手や場面の価値を世間にお伝えし、場を盛り上げることが目標。その達成のために出会いを大切に努力していきたいと思っています」

卒業生と母校との絆、ポケットに「新潟大学カード」入会受付中!

新潟大学全学同窓会では、新潟大学の発展を支援し、学部間の枠を超えた同窓会員へのサービスと連携を深める目的で、三菱UFJニコスと提携してクレジット機能付きVISA国際カード「新潟大学カード」を発行しています。

新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局
電話:025-262-7891
(受付時間 平日10:00~15:00)
E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



恩師：菅原 陽心 名誉教授 元・新潟大学経済学部教授 × 教え子：池乗 真巳さん 李 彬さん

シリーズ vol.25
恩師と語らう
師弟で懐かしむ当時の新潟大学



菅原 二人とも僕のゼミ生で、池乗君は商業短期大学部(現在の経済学部夜間主コース。以下商短)の卒業生。李君は現代社会文化研究科でも教えました。

菅原 面と向かったコミュニケーションが今よりも多い時代だったかもしれないね。
李 だから先生のゼミは人気でした。年末はコンパのお誘いが多そうでお忙しそうにされていた印象

を教わりましたよ。みんな実にと上手で。彼らの作ってくれた餃子が人生の中で一番おいしかった餃子だもの。
李 僕は皮を伸ばすのが苦手でしたが(苦笑)。先生は多趣味でギ

ターも歌もお上手でした。
菅原 最近はフルートをやっているよ。月に一回ほど西堀口サーでコンサートをやっています。池乗君今度お酒の配達途中に聴きにきてよ。
池乗 分かりました(笑)。

菅原 (笑)李君の時とはとにかく新書をたくさん読ませましたよね?

李 はい。週に一冊読んでいました。なかなか大変なペースだったと記憶しています(苦笑)。

池乗 先生はいつも優しく、当時から印象が全然変わっていませんね。先輩からは「菅原ゼミは単位が取りやすい」というありがたいアドバイスをいただいた(笑)。

李 僕も先生が優しくかったというのは今でも覚えています。先生に教わったのは勉強する力。何が問題で、その解決のためにはどうすべきかを考える力と姿勢を学生時代に学びました。

菅原 論文の書き方、資料の調べ方に限らず、「自分で考えよう」ということなのか?については特に指導しましたね。あと、李君は奥さんも見つけたしね。スラッとした美人でモデルさんみたいだった。彼女も僕の教え子です(笑)。

李 ありがとうございます(笑)。先生には本当に感謝しています。
池乗 学生との距離が近くて、お酒を飲む機会もたくさんありましたよね。

菅原 ありがとうございます(笑)。むのが忙しかったんです(笑)。ういえば李君たち留学生とは餃子パーティーをやったね。国際会館や学生のアパートで餃子の作り方



池乗 先生が「ちょっと待っていなさい」と、図書室に調べものに行く間、課題をやっていない学生が時間を稼いでいたんです(苦笑)。
菅原 こんな個性的な学生がいたんですよ。本当に多様だった。
池乗 学生時代に学んだ一番の経験は人との交流でしたよ。

菅原 それはすごく大きいね。いろんな人が一緒に学んで交流することは成長にとって重要なことだと思える。僕は最初に商短に赴任したからよく分かるんです。純粋培養みたいな大学はおもしろくない。いろんな人と接して、仲良くなったり喧嘩しながら、自分自身を育てていくことに価値があるんです。商短の学生や留学生と接している時間は実におもしろかったですね。池乗君は地域社会の中で広い視野を持って広く発信する感覚を忘れずにいてほしい。李君は日本にいても中国にいても充実した仕事と家庭を営める国際人になってほしいと思います。



すがはらようしん
菅原 陽心 名誉教授
博士(経済学)。専門は理論経済学。昭和61年東京大学経済学研究科修了。新潟大学商業短期大学部、経済学部にて教鞭を振る。退官後、現在は新潟大学人文社会科学系フェローとして後進の指導に当たる。



いけのりまさみ
池乗 真巳さん
昭和63年商業短期大学部卒業。新潟市中央区東堀前通にある新潟の地酒を中心に扱う専門店、池乗酒店の三代目。一期一会の精神でお客様と顔を合わせながらの接客を大切にしている。



りべん
李 彬さん
平成18年経済学部卒業。平成20年現代社会文化研究科修了。現在は、工業炉プラントを中心に扱うアドバンエンジニアリング株式会社の営業職。日本と中国を行き来しながら活躍する。

— 学生の輝く未来を共に創る — 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

経済的理由により修学が困難な学生に対する修学支援のための事業に限定して、ご寄附をお願いしております。平成28年税制改正により、上記の用途に限定した寄附に係る個人寄附者は、「税額控除」と「所得控除」のどちらかを選択することが可能となったことに伴い28年11月から募金活動を開始しました。

- 寄附目的と支援事業**
- 右記事業のうちから支援の必要性の高い事業に活用させていただくこととし、寄附者が支援事業を指定することはできません。
 - 入学料、授業料又は寄宿料の全部又は一部を免除する事業
 - 学資金を貸与又は給付する事業
 - 学生の海外への留学に係る費用を負担する事業
 - TAやRAの業務を行う学生に対する手当等を負担する事業

平成30年度においては、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」及び「新潟大学修学応援特別奨学金」に支援を行います。

- 寄附者名簿** (H30.6~H30.8寄附入金分) ※50音順 敬称略
- | | | | | | | | | |
|--------------------|---------|-------|------|-------|------|-------|-------|----------|
| (個人) 海藤 敏文 | 柏木 道子 | 栗原 幸二 | 小林 勲 | 小林 義夫 | 高橋 姿 | 田代 文俊 | 平井 博夫 | 松澤 澄江 |
| 宮下 正弘 | 吉塚 康一 | 米川 宏一 | | | | | | 匿名希望者 3名 |
| (団体) 株ウオロクホールディングス | 新潟特殊企業株 | | | | | | | |

新潟大学基金

「新潟大学基金」は、「新潟大学まなび応援基金」で行う事業以外の、全ての事業を推進するためご寄附をお願いしております。寄附者が教育活動の支援、学生の修学支援、研究活動の支援、キャンパス等施設整備の支援、病院運営の支援、大学全体の支援など寄附目的を指定することができます。

- 寄附者名簿** (H30.6~H30.8寄附入金分) ※50音順 敬称略
- | | | | | | | | | |
|--------------------|----------------------------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-----------|
| (個人) 青柳 敏彦 | 明地 暢夫 | 阿部 洋一 | 石田 武裕 | 市川 理子 | 及川 仁美 | 大畑 登代 | 岡澤 恵子 | 岡村 光展 |
| 小野 秀平 | 小野塚 淳哉 | 勝島 一真 | 加藤 一誠 | 加藤 信一 | 川井 洋一 | 岸 弘道 | 小林 勲 | 小林 公一 |
| 小林 康子 | 小林 義夫 | 小山 重人 | 佐藤 定雄 | 佐藤 純一 | 佐藤 順子 | 澤端 喜明 | 鈴木 直之 | 須藤 明子 |
| 関 靖子 | 高野 明 | 高橋 収 | 高橋 勇二 | 田中 一 | 成之坊 靖子 | 野村 みずき | 長谷川 清 | 畠山 貴明 |
| 畑 奈那美 | 羽鳥 隆 | 羽鳥 幹子 | 原 敏博 | 廣瀬 久三 | 船山 さおり | 星野 正 | 本間 祐子 | 牧野 久史 |
| 松下 盛男 | 宮下 正弘 | 森 登志男 | 矢口 健二 | 矢口 志保 | 山崎 肇 | 山田 ひとみ | 山本 武夫 | 米川 宏一 |
| 渡部 達範 | 和田 理澄 | | | | | | | 匿名希望者 13名 |
| (団体) 新潟大学医療技術短期大学部 | 平成6年卒弓道部OB有志一同
匿名希望者 1名 | | | | | | | |

新潟大学サポーター倶楽部

継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附することとし、平成28年3月に設立しました。企業・団体を中心に入会をお願いしております。また、会員への情報発信により、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指しています。

- 寄附者名簿** (H30.6~H30.8寄附入金分) ※50音順 敬称略
- | |
|-----------------|
| (個人) 石澤 健太 |
| (団体) JAバンク新潟県信連 |

■トピックス

7月24日(火)に輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金受給者と学長との懇談会を開催しました。当奨学金は主にサポーター倶楽部の会費をもって、経済的理由により進学を断念せざるを得ない学業優秀な者に対して給付しております。懇談会には、平成30年度に入学した奨学生46名、先輩奨学生1名、高橋姿学長をはじめ、理事・副学長が参加しました。



新潟大学古本募金

新潟大学古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附される取組です。寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられ、平成29年2月から募金活動を開始しました。

- 募金方法**
- ★学内(図書館、総合教育研究棟、第1学生食堂、大学会館他)に設置された回収ボックスに入れる。
 - ★5点以上を段ボール箱に入れ、取り扱い業者に電話(嵯峨野(株)TEL.0120-29-7000)で回収を依頼する。(詳しくは、パンフレットを参照してください。)

- 寄附者名簿** (H30.6~H30.8寄附入金分)
- | | |
|----------|----------|
| (個人) 23名 | (団体) 3団体 |
|----------|----------|

問合せ先 **新潟大学サポーター連携推進室** 【TEL】025-262-5651・6010・6356 【e-mail】kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp 【HP】http://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

新潟大学 古本募金

読み終えた本が募金となって 学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください

お申込み **新潟大学古本募金** ☎ **0120-29-7000** (受付) 9~18時

(運営) 嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第431100028608号

企画 **新潟大学サポーター連携推進室** TEL. 025-262-5651, 6010 真の強さを学ぶ。 **新潟大学**

今回のテーマ 秋の味覚で自分磨き

日 が短くなり、過ごしやすくなる季節になりました。秋といえは、食欲の秋ですね。昔から食べることは大好きなのですが、特に秋の食材はどれも大好きなので更に食欲が増してしまいます(笑)。さて、今回はせっかくなので『輝く女性研究所』という素敵な題名をつけていただいたので(実はスキンケアアドバイザーという資格も持っていますので)、秋の味覚と美容について書いていこうと思います。

夏の強い紫外線によって肌にも髪にもダメージが蓄積していき、シミ・ソバカスが目立ち、ハリのない肌を感じるようになるのが秋。そんな夏の疲れは旬の食材、秋の味覚で癒やしていきましょう。旬の食材を食べることは、季節を感じる事が出来るだけでなく、栄養価が高いため健康・美容にいいものが多いのです。

秋の食材といえは栗。先日、栗ひろいをしてきましたが、栗を見かけると秋を感じますよね。大人も子供も大好きな栗は白焼けた肌に嬉しいビタミンCがたっぷり含まれています。ビタミンCは紫外線によって作られるメラニンを抑制するだけでなく、発生したメラニンを還元する作用もあるため美白効果がまた、疲労回復や肌・髪の細胞の再生に働きかけるビタミンB1、B2も含まれています。栗ご飯やモンブラン・美味しく食べ

て綺麗になれるなんて幸せです。そして秋の果物といえは柿。新潟ではおなじみの柿が有名です。この柿にもビタミンCがたっぷり。その量はみかんの倍と言われるほどだそう。美容にはもちろん免疫力を高めてくれるので風邪をひきにくくなるとも言われています。他にもカロテンやポリフェノールがたっぷりなので、肌荒れなどの改善ができます。干し柿やあんぼ柿ではビタミンAやカロテンが増加するので抗酸化作用も期待できます。しかし、柿には体を冷やす作用があるので食べ過ぎには注意が必要です。適量を守って食べれば美容にも健康にもいい素晴らしい食材です。

代表的な2つの秋の味覚の美容効果についてご紹介してきましたが他にも栄養価の高い食材がこの季節にはたくさん食べられるので、ぜひ秋を感じながらスキンケアも意識してみてください。

男性も女性も、輝く人としては自身の見た目を磨くことも大切だと私は考えています。美人かどうか、格好いかどうかと言いつつ、自分への自信につながるのではないのでしょうか。外見も内面も同時に磨きながら、私も輝く女子を目指し続けたいと思います。

新潟大学OG
山田彩乃の隔号連載コラム

“輝く女性”研究所



Ayano Yamada

新潟大学教育学部卒業。2015Miss Earth Japan (日本代表)。したみちオフィス株式会社 芸能事業部代表。レギュラー番組 NST「八千代コースター」毎週土曜日10:25~放送。BSNラジオ「マエカブナカズカ」。その他、ウォーキングレッスン講師、講演会等も行っている。

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム “知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイデアを綴るリレー式コラム。第9回は医学部保健学科です。

第9回 ● 医学部保健学科 こどもへの病気や治療の説明と同意

こどもたちは、病気や医療のことば、あまりよく知らないだろう、と思いませんか？ 少なくとも、大人よりも理解力が乏しいと思っている人が多いと思います。30年前までは、7歳くらいまで、自分が病気になることは「自分が悪いことをしたからだ」とする、いわゆる内的正義(ピアシエ理論)が作用すると考えられていました。さらに、4歳くらいまで、「アニムスム(命のない事物を、あたかも命があり、意志があるかのように、擬人化して考える傾向性)があると考えられていました。ところが、今の子どもたちはどうでしょうか。病院でも3歳の子に「ぬいぐるみのクマさんも、痛いって言っているよ」と声をかけても「ぬいぐるみが、痛いって言うわけないじゃん」と笑って言い返されるし、6歳の子は「風邪ひいたのは、友達から感染したんだ。バイ菌のせいだよ」と、自責の念どころか、感染の概念をもとに立派に説明してくれます。このように、現在の子どもたちの病気や治療に関する理解度や認知力は、数十年前と比較すると、驚くほどの進化を遂げています。

私は現在、このように認知が進化している、慢性疾患を有する子どもたちの病気や治療の理解度を査定すること、それを踏まえて、正しい理解と自己管理へと導く説明方略の解明を目指した研究を進めています。

「こどもたちの病気や治療の理解度の査定」、この研究は発達心理学の研究者らとの共同研究となりまます。成人した患者に、幼児期から学童期に時に、自分の病気をどう理解していたかを振り返っても

住吉智子 保健学科教授

専門は小児看護学、小児がん患者、先天性疾患患者の「自分の病気と治療の理解と納得」の研究、教材開発に取り組んでいます。



らったり、保護者からの説明を後ろ向きに調査する研究です。保護者に対しては、わが子の病気の理解を、推定してもらっています。「親の推定とこどもの病気理解の実際はズレがあることが多いです。「親の心子知らず」の言葉はありますが、加えて「子の心親知らず」であり、いつの世も、親子の懸隔は不変であると感じます。「こどもたちへの説明方略」これは、感性デザインの研究との共同研究を進めています。この写真は、AR (Augmented Reality) 技術を用いて、点滴などについて学習したこどもたちの学習効果を調べるために開発されたものです。今は携帯ゲームも多く配信されていますが、ゲームを患者にするのではなく、味方につけながら「効果的なこどもへの説明と同意」に向けて取り組んでいるところです。興味のある方、ご連絡いただくと嬉しいです。

新潟大学キャリアセンター **CAN システム**

志望業界、企業で働く先輩に質問したい! 会社の中の様子について知りたい!

卒業生と新潟大学生をつなぐ、キャリア形成サポートの新しいカタチ! 卒業生と学生をつなぐ CAN システム

CAN システムとは Web 上のシステムを介して、学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください!

◎B・OGの皆様のご登録をお待ちしています! 新潟大学 CAN システム 検索 URL http://www.career-center.niigata-u.ac.jp

お問い合わせ先 新潟大学キャリアセンター TEL : 025-262-6087 FAX : 025-262-7579 E-mail : shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動が続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

日本酒学シンポジウムを開催しました

新潟県酒造組合、新潟県、本学の連携協定のもと今年4月に設置した新潟大学日本酒学センターが、一般の方も参加できる日本酒学シンポジウムを8月3日(金)、朱鷺メッセ(新潟市)にて開催しました。日本酒学センター設置後初となるこのシンポジウムは、実際に動き出した日本酒学センターの取り組みや研究内容をより多くの方にご理解いただくことを目的に開催され、当日は定員を上回り、一般の方を含む270人の方々にお越しいただきました。シンポジウムでは、ワインの世界的産地として名高いフランス・ボルドーからボルドー大学



ブドウ・ワイン科学研究所のハトリック・ルーカス教授をお招きした特別講演も行われ、ワイン科学研究所設立の経緯や現在の取り組みを紹介するとともに日本酒学センターとの今後の連携への期待が語られました。その後4つの研究トピックが報告され、熱心にメモをとる一般の方の姿も多く見受けられ、日本酒学への興味の高さがうかがわれました。



イノベーションジャパン2018に出展しました

8月30日(木)・31日(金)に東京ビッグサイトで開催された、全国の大学等から研究成果が結集する国内最大のマッチングイベント「イノベーションジャパン2018」に出展しました。個別ブース展示の他に大学組織による展示が設けられ、本学では、組織展示およびシーズ展示5件を出展しました。個別ブース展示では「広視野レーザ顕微鏡を用いたミクロ・ナノ欠陥検査および3次元ナノ形状計測」など7つのテーマを



それぞれ展示し、ブースには多数の企業関係者が訪れ、熱心な相談が行われました。大学組織展示では、昨年10月に設置されたビジネスプロデュース室が中心となって「大型マルチコプター(ドローン)の動力-小型ジェットエンジンで新潟のビジネスプロデュース」の展示を行い、企業関係者が多数訪れるなど、積極的な意見交換が行われました。また、ビジネスプロデュース室の深谷教授によるプレゼンテーションでは座席が不足するほど聴講者が多数参集し、大変注目されたプレゼンテーションになりました。

インド理科大学院大学(IISc)と大学間交流協定を締結しました

インド理科大学院大学(Indian Institute of Science: IISc)と大学間協定を9月3日(月)に締結しました。1909年設立の IIScはベンガルに所在する国立大学であり、インド政府機関 National Institutional Ranking Framework (NIRF)の発表するインド工学系大学ランキングで過去3年間第1位を獲得するなど、国内トップレベルの理工系教育研究機関として知られています。本学理学部及び大学院自然科学研究科では、インドの複数大学との交流を通じた「グローバルフィールド科学人材」の育成に取り組んでいます。

このたびの大学間協定は、IISc地球科学センターの Sajeed Krishnan博士と本学理学部 Satish Kumar教授との25年以上にわたる共同研究をベースとして、更に幅広い分野での研究・学生交流を目指し締結されたものです。



新潟大学
季刊広報誌



R I K K A 2018.AUTUMN No. 26

発行/平成30年10月
編集/新潟大学広報センター
(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)
電話/025-262-7000
FAX/025-262-6539

Home Page <https://www.niigata-u.ac.jp/>
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学 Facebook
<https://www.facebook.com/niigata.univ>